



平成 20 年 11 月 19 日

各 位

会 社 名 株式会社NFKホールディングス  
代表者名 代表取締役社長 城寶 豊  
(JASDAQ・コード6494)  
問合せ先 役職・氏名 取締役 田中 耕  
電話 045-575-8000

(訂正・数値データ訂正あり)「平成 21 年 3 月期第 2 四半期決算短信」  
の一部訂正に関するお知らせ

平成 20 年 10 月 31 日付で発表致しました、「平成 21 年 3 月期 第 2 四半期決算短信」につきまして、記載内容の一部訂正すべき事項がありましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 訂正理由

当社は、平成 20 年 10 月 31 日に「平成 21 年 3 月期 第 2 四半期決算短信」を発表しておりますが、その後の社内ならびに監査法人による精査の結果、記載内容に誤りが見つかったため訂正するものであります。なお、四半期報告書は平成 20 年 11 月 12 日付にて関東財務局に提出しておりますが、こちらについての訂正はございません。

2. 訂正内容

「平成 21 年 3 月期 第 2 四半期決算短信」における訂正箇所につきましては、別紙のとおりです。

訂正箇所は\_\_\_\_\_で表示しております。

【別紙】訂正内容について

(1 ページ)

(訂正前)

1. 平成 21 年 3 月期第 2 四半期の連結業績 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)

(1) 連結経営成績(累計)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21 年 3 月期第 2 四半期	1,827	△36.8	<u>149</u>	—	<u>160</u>	—	114	—
20 年 3 月期第 2 四半期	2,891	△47.5	△ 117	—	△ 418	—	△ 1,839	—

	1 株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1 株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
21 年 3 月期第 2 四半期	3	85	3	75
20 年 3 月期第 2 四半期	△ 62	04	—	—

(訂正後)

1. 平成 21 年 3 月期第 2 四半期の連結業績 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)

(1) 連結経営成績(累計)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21 年 3 月期第 2 四半期	1,827	△36.8	<u>150</u>	—	<u>161</u>	—	114	—
20 年 3 月期第 2 四半期	2,891	△47.5	△ 117	—	△ 418	—	△ 1,839	—

	1 株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1 株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
21 年 3 月期第 2 四半期	3	85	3	75
20 年 3 月期第 2 四半期	△ 62	04	—	—

(2 ページ)

【定性的情報・財務諸表等】

(訂正前)

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期におけるわが国経済は、米国のサブプライムローン問題に端を発した金融不安の世界的な広がりの影響を受け、世界同時株安や急激な円高など、先行きの不透明感はますます色濃いものとなっており、景気の減速感が明確になる展開となりました。

このような状況下、当社グループは燃焼装置関連事業に集中し、当社の高度な技術を活かした工業用回転炉・燃料転換用装置及び燃焼系工業炉・リジェネレイティブバーナなどの拡販に努めた結果、売上高・受注残ともに堅調に推移いたしました。また、仕入れコストの見直しや原価管理の厳格化、無駄を排除し効率性アップに努めるなどの収益改善について全社的な取り組みを行い、一定の成果を挙げております。

この結果、当第2四半期の経営成績は、売上高がグループ事業再編によって連結子会社数が減少したことを主因として前年同期比 36.8%減の 1,827,832 千円となったものの、営業利益は 149,378千円（前年同期比は 117,784 千円の営業損失）、経常利益は160,950千円（前年同期比は 418,846 千円の経常損失）、四半期純利益は 114,230 千円（前年同期比は 1,839,789 千円の間接純損失）となりました。

(訂正後)

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期におけるわが国経済は、米国のサブプライムローン問題に端を発した金融不安の世界的な広がりの影響を受け、世界同時株安や急激な円高など、先行きの不透明感はますます色濃いものとなっており、景気の減速感が明確になる展開となりました。

このような状況下、当社グループは燃焼装置関連事業に集中し、当社の高度な技術を活かした工業用回転炉・燃料転換用装置及び燃焼系工業炉・リジェネレイティブバーナなどの拡販に努めた結果、売上高・受注残ともに堅調に推移いたしました。また、仕入れコストの見直しや原価管理の厳格化、無駄を排除し効率性アップに努めるなどの収益改善について全社的な取り組みを行い、一定の成果を挙げております。

この結果、当第2四半期の経営成績は、売上高がグループ事業再編によって連結子会社数が減少したことを主因として前年同期比 36.8%減の 1,827,832 千円となったものの、営業利益は 150,005千円（前年同期比は 117,784 千円の営業損失）、経常利益は161,576千円（前年同期比は 418,846 千円の経常損失）、四半期純利益は 114,230 千円（前年同期比は 1,839,789 千円の間接純損失）となりました。

(6 ページ)

(訂正前)

(2) 【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間	
(自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	
売上高	1,827,832
売上原価	1,229,533
売上総利益	598,299
販売費及び一般管理費	448,920
営業利益	149,378
営業外収益	
受取利息及び配当金	1,406
仕入割引	4,729
持分法による投資利益	4,072
雑収入	4,012
その他	202
営業外収益合計	14,423
営業外費用	
支払利息	1,955
雑損失	741
その他	153
営業外費用合計	2,851
経常利益	160,950
特別利益	
投資有価証券売却益	29,353
貸倒引当金戻入額	6,061
その他	15,324
特別利益合計	50,739
特別損失	
保険解約損	31,644
その他	1,096
特別損失合計	32,740
税金等調整前四半期純利益	178,949
法人税、住民税及び事業税	55,744
法人税等調整額	8,974
法人税等合計	64,718
四半期純利益	114,230

(訂正後)

(2) 【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間	
(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)	
売上高	1,827,832
売上原価	<u>1,228,867</u>
売上総利益	<u>598,965</u>
販売費及び一般管理費	<u>448,959</u>
営業利益	<u>150,005</u>
営業外収益	
受取利息及び配当金	1,406
仕入割引	4,729
持分法による投資利益	4,072
その他	<u>4,212</u>
営業外収益合計	<u>14,423</u>
営業外費用	
支払利息	1,955
その他	<u>895</u>
営業外費用合計	<u>2,851</u>
経常利益	<u>161,576</u>
特別利益	
投資有価証券売却益	29,353
貸倒引当金戻入額	6,061
受取和解金	<u>14,000</u>
その他	<u>1,071</u>
特別利益合計	<u>50,486</u>
特別損失	
保険解約損	<u>32,291</u>
固定資産除却損	<u>296</u>
その他	<u>526</u>
特別損失合計	<u>33,114</u>
税金等調整前四半期純利益	178,949
法人税、住民税及び事業税	55,744
法人税等調整額	8,974
法人税等合計	<u>64,718</u>
四半期純利益	114,230

(7 ページ)

(訂正前)

(4) 継続企業の前提に関する注記

当社グループは、当第2四半期連結会計年度においては、149,378千円の営業利益及び114,230千円の四半期純利益を計上しておりますが、営業活動によるキャッシュフローはマイナスであり、前連結会計年度まで当期純損失を継続して計上しておりましたため、当該状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義が存在しております。

連結財務諸表提出会社である当社は、工業炉燃焼装置関連事業への注力に取り組み営業収益力の向上に努めました結果、連結有利子負債残高合計は64,593千円と前連結会計年度末の395,807千円から331,214千円減少しました。

今後も引き続き、黒字体質への転換を確実にするため収益改善策を実行し、財務の健全性に配慮しながら業務提携などを通じ積極的な経営を目指します。

四半期連結財務諸表は継続企業の前提として作成されており、このような重要な疑義の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(訂正後)

(4) 継続企業の前提に関する注記

当社グループは、当第2四半期連結会計年度においては、150,005千円の営業利益及び114,230千円の四半期純利益を計上しておりますが、営業活動によるキャッシュフローはマイナスであり、前連結会計年度まで当期純損失を継続して計上しておりましたため、当該状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義が存在しております。

連結財務諸表提出会社である当社は、工業炉燃焼装置関連事業への注力に取り組み営業収益力の向上に努めました結果、連結有利子負債残高合計は64,593千円と前連結会計年度末の395,807千円から331,214千円減少しました。

今後も引き続き、黒字体質への転換を確実にするため収益改善策を実行し、財務の健全性に配慮しながら業務提携などを通じ積極的な経営を目指します。

四半期連結財務諸表は継続企業の前提として作成されており、このような重要な疑義の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(8 ページ)

(訂正前)

(5) セグメント情報

a. 事業の種類別セグメント情報

当第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

	工業炉燃焼装置 製造事業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	1,825,835	1,997	1,827,832	—	1,827,832
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替品	—	223,040	223,040	(223,040)	—
計	1,825,835	225,038	2,050,873	(223,040)	1,827,832
営業利益	<u>334,711</u>	215,074	<u>549,786</u>	<u>(400,407)</u>	<u>149,378</u>

(訂正後)

(5) セグメント情報

a. 事業の種類別セグメント情報

当第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

	工業炉燃焼装置 製造事業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	1,825,835	1,997	1,827,832	—	1,827,832
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替品	—	223,040	223,040	(223,040)	—
計	1,825,835	225,038	2,050,873	(223,040)	1,827,832
営業利益	<u>335,611</u>	215,074	<u>550,686</u>	<u>(400,681)</u>	<u>150,005</u>

以上